

厚生労働科学研究費補助金（政策科学推進研究事業）
「施設保育士養成カリキュラム開発に関する研究」
総括報告書

第3章 保育士養成校で学んでおくべき科目・内容について

研究協力者 山瀬 範子（九州大学大学院博士課程）

<要旨>

本章では、保育所以外の児童福祉施設にて勤務する保育士を養成するために、どのような科目内容を履修しておく必要があるかについて検討を行う。分析の結果、(1) 医学や看護学など従来のカリキュラムでは扱わない内容が求められていること、(2) 従来のカリキュラム内容よりもより広範囲で専門的な知識が求められていることが明らかとなった。

1. 問題設定

調査票の問2では、保育所以外の児童福祉施設（以下、施設と表記。）において勤務する保育士にどのような科目・内容を習得しておいて欲しいか、つまり、施設で勤務する保育士にどのような知識が必要とされるのかについて、質問を行った。具体的には、次頁のような質問を行った。

2. 調査結果の分析

「施設保育士」として勤務する上で、養成校で学んでおいてほしい科目について回答を求めた。従来の保育士養成カリキュラムにはほとんど含まれていない内容としては、まず、医学に関する知識が挙げられる。

(1) 医学に関する知識

ID7 「医学概論」…医療スタッフとの連携医療に関する基礎知識、病気(障害

の基となる)全般の知識

ID11 「小児医学」…乳幼児の感染症等及び障害要因となる病気(てんかん等)

ID20 「乳児院における健康管理」…乳幼児の病気についての基本的知識、乳幼児の保健衛生について

ID21 子どもの健康と医療的なケアについて

ID26 「健康管理と感染症への対応」…伝染病、感染症に対する理解

ID29 「健康管理」…施設内での環境整備や感染症予防

ID37 「児童精神医学」…発達障害児に対する知識とその対応について

ID38 「医学及び看護に関する基礎的な理解」…安全対策、健康管理面などから、利用者の健康状態について、医療従事者と会話ができる程度の基礎知識を得ていて欲しい

問 2

現在、保育士養成課程において、施設に関連する科目は社会福祉や児童福祉、社会福祉援助技術、障害児保育、養護原理、養護内容、施設実習、発達心理学など、きわめて限定的です。

児童福祉施設の種類の多岐にわたりますが、貴施設で採用される職員が、保育士養成校で学ぶべきことやその内容について、今の養成課程や教科目名にこだわらず、教えてください。

養成校で学ぶべきこと	例えば、どのような内容でしょうか
(記入例) 幼稚園における 保育の計画	(記入例) 幼稚園における指導案の作成方法 年間・週間・毎日の保育計画の作成とそれぞれの位置づけ
(記入例) 幼稚園における 健康と安全	(記入例) 幼稚園での感染症予防、登園・降園時の安全確保
(回答欄)	

ID53 「精神医学講義の充実」…精神障害の種類、特徴と治療法の概論

ID 60 「肢体不自由児の健康」

ID61 「施設における保健、感染症対策」…施設で感染症を予防するための方法、罹患、集団発生時の対応

ID 67 「医学一般」

ID70 救急処置の方法

ID 89 「保健管理(保健管理の基本、日常の養育における保健活動、疾病活

動、疾病異常への対応、健康診断と健康診査、予防接種の計画と留意点、等)」「疾病異常への対応(伝染病について、症状別の病気への対応、与薬への留意事項、等)」「特殊な感染症への対応(MRSA感染症、B型・C型肝炎、HVI感染症、レジオネラ症、O-157 感染症等)」「救急蘇生(知識と技能等)」「かかわりのむづかしい事例とその対応(うつ病、精神統合

失調症、アルコール依存症等)」

医学に関する知識としては、感染症への対策や子どもたちの健康管理に関する、従来のカリキュラムでは小児保健等で取り扱われる内容も含まれたが、医療スタッフとの連携ができるような高度な医学や看護学に関する知識を求める意見が見られた。

医学に関する知識の他にも、身体障害や知的障害についてもより高度な知識や援助技術、介護技術を求める意見が多くみられた。

(2)身体障害・知的障害に関する知識

<障害児に対する知識・援助技術>

- ID11「障害児へのアプローチの方法（様々なプログラムについての理論（ティーチプログラム、ポーターズ、インテリアル、ボイタ法・・・他）」
- ID13「自閉症児、発達障害児について（これらの児童への接し方、親への指導・助言について）」
- ID16「自閉的傾向の子への対応（アスペルガー、ADHDetc.児の理解と対応の仕方）」「知的障害児への対応（知的障害児への対応（知的障害児の理解と対応の仕方）」
- ID18「障害の種類、内容」
- ID19「障害への理解（LD,ADHD、広汎性発達障害などの理解と支援内容、援助技術）」
- ID21（各種の障害について（特徴、援助について）
- ID23「軽度発達障害について（学習障害・注意欠陥多動性障害・広汎性発達障害等の特徴と対応の仕方について）」
- ID28「子どもの特性に応じた対応方法や療育の実際（発達障害を抱える児童に対する援助のあり方や具体的方法（ADHD,ADD,LD,アスペルガー等）」
- ID29「知的障害児施設における個別支援計画・年間指導計画（個々の児童の発達状況を踏まえた援助プログラムの作成方法と援助の仕方。個々の支援ニーズの把握と理解。）」「個々の障害に対する専門的知識と対応（障害の重度・重複化や多様性、また児童虐待によるケースも増える中での専門的知識の必要（心のケアやトラウマ対策への対応）」
- ID47「知的障害児通園施設における発達障害についての理解（・定型発達の子どものとの違いに気づき、発達の偏りやその他の問題により、生活しづらさを理解する。又、保護者の子どもの育てにくさも理解する。）」「知的障害児通園施設における個別支援計画（・児の特性を踏まえ、得意なこと、苦手なことに配慮し保護者と発達課題を明確にして（すり合わせ）作成する。）」「知的障害児通園施設における対人援助技術（児に対してはもちろんであるが、子どもの障害の受容にばらつきのある保護者に対しても、寄り添いながら各々の保護者に合った考え方（家族支援）を見つける。）」
- ID 48「施設における高齢児援助（中学生、高校生に対する、援助技術全般）」
- ID58 障害児保育の教科内容の充実（現場体験、ワークショップなど）。
- ID60「障害について」・・・脳性マヒ等の病気の理解、早期療育の必要性（なぜ大

- 切なのか)、早期発見のポイント
- ID 64「障害児における遊び、療育(障害児施設では、自発的に動けない児も多いため、タッピングなどのふれあい遊びや、感覚を刺激する遊びの重要性。また、その対応など。)」「障害児における接し方(障害児保育などで、自閉症児などの知的障害について学ぶ事は多くありますが、重度の障害を持った児の接し方や注意点など障害児について学ぶ範囲を広げ、知識・技術の習得など。)」
- ID 65「知的障害児施設における支援(知的障害児の療育支援、発達障害のメカニズムと支援)」
- ID 68「障害とその特徴(色々な障害の原因や特徴を知る)」「障害児と養育者の心(障害を持って生まれてきた子の親の心とその変化、障害者(児)の生活、成長等)」
- ID 72「障がい児施設における障がい特性(障がいの種類や障がいの特性、例えば自閉症、広汎性発達障がい等)」
- ID 73「広汎性発達障害児への対応(自閉症、アスペルガー症候群等の理解と接し方)」
- ID 74「「しょうがい」について(「知的しょうがい」等の基礎的な知識を学んで欲しい)」
- ID 79「障がいの特性(特性に応じた支援技術)」「支援計画の策定(策定の方法や手順)」
- ID 87「障害者福祉論(特に発達障害について。)」
- <介護に関する技術>
- ID7 介護について(ADL の援助、補助具

の扱い等)

- ID17「介護技術(利用者の安全な移動・介助)」「障害の理解(重複障害や重症心身障害の知識)」
- ID67「介護の基礎知識」(障害者の疾患と障害特性(精神障害含))(福祉用具(車椅子含)の扱い方)
- ID79「介護技術(障がいに応じた介護、支援方法)」

「障害児保育」等の科目の中で、取り扱われてきた内容に相当するが、そこで教授される内容よりもより高度な知的障害・身体的障害に関する知識や援助の技術が必要とされていることがわかる。

また、心理学的な知識や技術についても従来の「発達心理学」、「教育心理学」等で扱われる内容よりもより高度な内容が必要とされている。

(3)心理学に関する知識・技術

<カウンセリングの技法・心理的ケア>

- ID28 「心理的ケア(カウンセリング等専門領域に深く入り込む必要はないが、日常生活場面における具体的サポートの方法について、例えば、被虐待、いじめ、不登校、自傷行為等子どもの抱える問題は多様化しており、それぞれに適切に対応するためのノウハウは最低限必要)」
- ID32「母子家庭における課題と援助(DV等により家庭が崩壊した母子を社会自立へと導くための心理的ケアと具体的な言葉)」
- ID45「保護者支援(子どもの発達支援も大切ですが、施設の場合、保護者の精

神面での支援がとても重要と思います。心理学やカウンセリングの授業が必要だと思います。)」

ID47「知的障害児通園施設におけるアセスメント(児の正確な評価ができるよう、ある程度の検査が行えるようにする。)」

ID53「心理的ケアの実際(問題行動の深層心理と特徴的な問題行動、それらへの心理的ケアの実際)」

ID 54「入所児童の抱える課題の理解と援助技術(・児童精神医学に関する知識、・家族支援に関する知識、技術、・カウンセリング等対人面接に関する知識、技術)」

ID55「相談技術(カウンセリング)(ロールプレイ、事例をあげてディスカッション etc)」

<検査に関する知識・技術>

ID44「発達検査(検査の意義、種類等について。)」

ID 78(検査方法(遠城寺式発達検査、K式その他))(年間、月間、週間、個別の療育計画の計画)(実施、記録方法など)

ID61「児童のアセスメントと支援プランニング(具体的なアセスメントの方法と支援プランの作成方法、その実践(実習))」

<発達に関する知識>

ID23「子どもの発達に必要なこと(子どもの存在そのものが受け入れられ、自分という存在に揺るぎのない自信や誇りがもて、自尊の感情が育つこと。そのためにはできるだけ子どもが望んでいるようなやり方で愛や育児の行動を与え

ていくこと。母性的なものが十分に満たされた後に、父性的なしつけを受け入れられるようになるのが、子どもの発達段階であるということ。)」

ID24「心理学(発達課題、愛着について、防衛機制について、カウンセリングの基礎について(受容・共感・傾聴など))」

ID26「施設における子どもへの対応(心理学、特に青年心理学への理解。考え方、接し方については、時代と共に変化していると思うので、現在の考え方をよく理解していただきたい。)」

ID58 発達心理学の教科内容の充実(乳児の発達は特に詳しく教える)。

ID92 心理は対象年齢を全てモーラする)

心理的なケアや検査技術について従来のカリキュラムで教育されるような内容よりも、より専門的な技術が習得できるようなカリキュラムであったり、発達に関する知識についても乳児の発達から青年期まで広範かつ専門的な知識が求められている。保育所よりも多様な利用者を対象とする施設においては、それだけ、多彩な知識が求められている。

また、利用者だけでなく、その家族に対する援助についてもより専門的な技術が求められていた。

(4) 家族への対応に関する知識

ID8「関わりの難しい保護者への対応(精神的な問題をもつ保護者への分析と具体的な対応法、援助法)」「虐待について(虐待に関しての理解～被虐待児・虐待をしてしまう親への理解と支援等)」

- ID11「利用保護者とのかかわり方(接遇)
(保護者とのかかわり方のポイント、配慮すべきこと等)」
- ID16「家族ソーシャルワーク(家庭復帰を
目ざす過程での家族支援の在り方)」
- ID19「地域支援(地域支援のネットワーク、
ケアマネ)」
- ID21 保護者への援助
- ID45「保護者支援(子どもの発達支援も
大切ですが、施設の場合、保護者の精
神面での支援がとても重要と思います。
心理学やカウンセリングの授業が必要
と思います。)」
- ID47「知的障害児通園施設における対人
援助技術(児に対してはもちろんである
が、子どもの障害の受容にばらつき
のある保護者に対しても、寄り添いながら
各々の保護者に合った考え方(家族支
援)を見つける。)」
- ID66「社会福祉援助技術論(家族支援)」
(障害児の早期療育には家族支援を
考えないでは達成できません。環境の
異った家族への精神的支援、療育に関
する支援等が大切な業務の一つとなっ
ています。)
- ID 76「保育園・幼稚園・施設等における
家族支援(親の心理など)」
- ID87「家族福祉(児童だけではなく、保護
者についても学ぶ。)」

特に虐待や DV については、子どもとその
親双方に対する知識と援助技術が求められ
ている。

(5)虐待についての知識

- ID8「虐待について(虐待に関しての理解

～被虐待児・虐待をしてしまう親への理
解と支援等)」

- ID9「(養護施設の役割として)虐待児が
安心して生活できる環境を保証するた
めに、(①被虐待児を理解する②被虐
待児対応スキル③乳児から 18 才まで
の発達心理学④職員としての自己確
知(教育カウンセリングを受ける)⑤生活
スキル⑥ソーシャルワーク(ソーシャル
スキル))」
- ID10「児童・親に対する心のケア(児
童・親に対して、どうささえていくのか)」
「DV について(児童虐待、DV のカウ
ンセラー)」
- ID14「被虐待児を理解する(被虐待等
の言動に対応するために知っておか
なくてはならないこと)」
- ID16「虐待を受けた子への対応(被虐待
児の理解と対応の仕方)」
- ID19「虐待への理解(被虐待児への心理
的サポート、支援技術)」
- ID36「虐待についての専門的な知識(被
虐待児の心理・対応の方法・家族への
支援など)」
- ID51「児童の虐待のメカニズムについ
ての学習(虐待が子どもにあたえる影響
についての学習。)」
- ID55「DVについて(実態やそのサイクル、
精神にあたえる影響 etc、被害者心理、
子どもへの影響)」
- ID 63「被虐待児の実態と対応(被虐
待児への心のケア)」

更に、社会福祉制度に関しては、次のよ
うな知識・技術が求められていた。

(6)社会福祉の制度・法律に関する知識

- ID11「社会福祉制度(皆が受けられる福祉サービス、手当など)」
- ID12(福祉全般の基礎知識)
- ID14「DV 法(養護施設や一時保護書では、夫からの虐待を受けている母親に育てられている児童も少なくありません。DVのメカニズムを理解する。)」
- ID16「児童自立支援(社会的に自立してゆけるための支援の在り方)」
- ID24「社会福祉援助技術(アセスメント、インテークなどについて)」「児童福祉(児童福祉施設の歴史、移り変わり、目的の変化など。)」
- ID29「施設機能と役割理解(「児童福祉法」に規定する知的障害児施設としての発達障害児童の受け入れと施設福祉サービス・在宅福祉サービスの提供方法)」
- ID31「自立支援法について(H18.10より障害児施設においても障害者自立支援法が施行されたので、それについての学習。)」
- ID55「社会資源の活用(児童相談所、保健所、役所等の役割、ネットワークづくり(それらに関連する児童手当、生活保護 etc 制度や法律を含め)」「(今までもあった項目だと思うが、内容が浅かったように思える。)
- ID66「社会福祉原理」「法学」
- ID69「法制度の移り変わり(どこに不備があって変ったのか、何を目的とした法改正なのか等)」
- ID70 福祉に関する社会状況(自立支援法のことなど)
- ID74「福祉制度」(自立支援法による制

度改変についての知識がないと、子どもたちの進路設定に支障がでる)」

ID79「新法律・制度(自立支援法等)」

ID87「ソーシャルワーク援助技術(少しは勉強しておく必要がある。)」

社会福祉関連の法律に関する知識や最近の社会福祉行政の様相、援助のための技術など、社会福祉制度を利用する上で、より実践的な援助が行えるような知識技術が求められている。

さらに、施設については、次のような知識が求められていた。

(7)施設についての知識

<施設の内容について>

ID46(施設の種別によって支援の仕方や利用児童の障害等が違うので種別に合わせた知識や理解力がより一層必要になります。採用施設の種別に対応できるように要請してほしい。)

ID51「各児童福祉施設の内容について(各児童福祉施設の内容についてもう少し詳しく学習が必要)」

ID15「各児童施設入所児の現状・ニーズ(一言で「児童施設」といっても、入所児童のニーズ、おかれている立場は、多様であるため、広い視点で児童を捉えられるような内容)」

ID18「児童福祉施設の種類及び内容」

ID29「全体事業計画(学園全体での取り組みを通し、入所児童の基本的な生活習慣の確立と個々の障害特性に配慮しながら豊かな人間性を養うための計画立案)」

<特に施設において必要とされる知識・技

術>

- ID15「社会福祉援助技術(直接援助技術)
(保育士の場合、多くの場合、直接援助となるため、ケースを想定した有効な理論をふまえて、事例もしくは実習に当たる。)」
- ID52「施設における援助計画(個別支援プログラム等の作成方法、年間、月間、週案、毎日の保育計画の作成と、位置づけ、評価等)」
- ID70 手話や点字など専門的なこと
- ID91「児童福祉施設における発達特性、事故管理(乳幼児の感染症、救急蘇生や応急処置、乳幼児期におこりやすい事故、処置、適切な対応、発達の重な特徴)」
- ID6 「施設における保育の計画(施設(母子生活支援施設では乳幼児から小学生・中学生・高校生)が対象となります施設内保育をしています、その場合でも保育園の施設と同じことが決まっています。安全面、保健面等援助の方法、デイリー、環境設定。個の視点の取り組み方等真理的な面、心理学、福祉についての基本の考え方等位置づけ)」

以上、見てきた中では、従来のカリキュラムには含まれていない内容や従来のカリキュラムよりもより高度な内容が求められていたが、次のように、従来のカリキュラムにおいて定められている内容も、学んでおいて欲しい内容として挙げられていた。

社会常識やマナー、日常生活のための生活技術に関する科目内容を必要とする意見も多く見られた。

(8)生活についての知識、社会常識やマ

ナー

<生活技術>

- ID23「調理技術を含む生活能力(小舎制、グループホームにおいては子どもと共に生活の営みを行うことが大切な仕事内容である。)」
- ID68「環境整備(・保育室・トイレ・手洗場等の清掃の仕方、・洗たくの仕方、干し方、たたみ方、・保育教材、保育用具等の整理の仕方)」
- ID70(料理、裁縫など「家庭科」的な内容)
- ID 85「生活(昨今、学生さんの中には生活が出来ていないと感じる事があります。社会の変化によるものでしょうか。それとも家族のあり方が変わってきたせいでしょうか…。けれども施設では、子ども達に生活(自活)することを指導しなければなりません。保育者がまずお手本になる必要があります。)」

<マナー、社会常識>

- ID41「日誌や、計画の記入の仕方(養成校において、指導内容に大きなばらつきがあり、日記方式になっている者が多い。観察のポイント)」
- ID44「記録(文章力)(私情を入れず、観たことを簡潔にわかりやすく記録する場合や、“連絡帳”など日々の家庭とのやり取りを想定した時の書き方について。)」
- ID 71「施設は不問 作文力((1)常識的な漢字や言葉に関する知識を身につける(2)簡潔・明快な文章力をつける(3)読み易い(理解し易い)表現方法を訓練する。)」(記録や意思疎通は協働の要であり、文章力はその基礎です。論理

的な文章は非論理的な人には書けませんので、そのための訓練が必要です。)

ID 82「社会的基本マナー(基本的に学術だけでは通用しない。一般的な社会常識、基本的接遇マナー等の学習をしていただきたい。)」

<社会性、人間関係>

ID11「福祉の心(よりよいサービスの提供、道徳心、相手を思いやる気持ち、保育士としてもつべき気持ちの獲得)」

ID12(周りの人と通常のコミュニケーションがとれる。)

ID33(いわゆる知識以前に社会性(常識)に欠ける者が多く、これは学校教育ではないかもしれませんが、学んでいただきたいです。児童養護施設に入所する子どもたちのケアは心理的なアプローチが必要になってくるのがふえてるので、そうした学び(さわりだけでも)が必要になっていると思います。)

ID43「人とのコミュニケーションの大切さ」「自分を表現する事の大切さ」「情操面の豊かさ」(最近、自分を表現する事の下手な人が多く、又コミュニケーションが難しい人は、私たちのような施設には向かないと思います。)

ID44「コミュニケーション(電話での対応(尊敬語、謙譲語)、他者に対する思いやり、傾聴の大切さについて。又、報告、連絡、相談について。(人から聞いたことを、正しく他の人に伝える等)」

これらは施設実習に限らず、保育所実習でも、また、一人の人間としても不可欠な能力であるが、学校の中での指導が求められ

ている。

その他にも、従来の保育士養成カリキュラムと重複するような内容として、保育に関する知識・技術に関する内容が見られた。

(9)保育に関する知識・技術

<保育に関する知識・技術>

ID11「レクリエーション概論(理論と実践)」

ID11「保育技術(製作物、教材づくりなど)」

ID39「保育所における子どもとの活動とその援助方法(保育所での子どもの活動のバリエーションを増やし、その留意点を考えるなど実践的な力を身につける)」

ID73「余暇活動(様々な事情により、また、年令も幅広い子どもたちが喜んで参加できるような余暇活動のカリキュラムのたて方と実施の方法)」

ID92 楽しくすごせるための保育技術

<安全管理やリスクマネジメント>

ID11「施設における安全管理(全般)」

ID12(リスクマネジメント意識)

ID18「児童を取り巻く社会の現状(今、どんな問題が起きているか原因は何か。)」

ID21(安全管理について)

ID31「施設における健康と安全(施設での感染予防、作業時・通学時の安全確保)」

ID67「リスクマネジメント」

ID89「事故防止と安全教育(事故防止、重大事故の発生時の対応、災害非常時の対応)」

<施設実習について>

- ID11「施設実習(様々な施設でのより多くの体験)」
- ID40「実習への取り組み(何故、実習が必要なのか。実習に当たっての姿勢の指導)」
- ID 53「施設実習のカリキュラムの充実(1)実習期間を最低 14 日間程度都市、関わる児童を学令別等にする等のフォーカシングする工夫を行う。2)実習生の位置付けを補助的なものから、準職員的なものに改変する(例:専任職員の指名)。3)評価項目の充実と具体化)」
- ID 58(施設実習の充実、強化。)(※どの教科も、文献を読むだけでなく、実践につながるような具体的事例を盛りこむことが望ましい。)

以上の類型に当てはまらない意見として、次のような意見が寄せられた。

(10)その他

- ID6「実習で得た後の子供の成長発達等再学習する時間を学ぶべきと思うので、学習の時間をとるべき配慮(子どもの状況など実際遊んで学生自身が感じた事等から推察する時間等の配慮)」
- ID23「脱施設化の概念について(規制の多い生活から少ない生活へ。大きな施設から小さな施設へ。大きな生活単位から小さな生活単位へ。集団生活から個人の生活へ。依存した生活から自立した生活へ。)」
- ID34「施設保育士の役割(保育という言葉から来るイメージは乳幼児や低年齢児の保護育成に重点があるが、施設

保育士の役割として保護者支援・子育て支援や社会参加にむけた親支援が必要な時代となっている。親支援にむけた保育士の養成に力点をおいた教育が必要である。)」

ID55(養成校によって違うと思うが)もう少し掘り下げても良いと思う。幼児保育だけではなく、妊娠から出産までの女性の体の変化や、乳児保育についてもより詳しく。)

ID74「「コストパフォーマンス」(低予算で仕事ができる考え方を身につけてほしい)」

ID83「施設保育士と保育所保育士との役割の違いについて(○それぞれ、どのような目的を持って、子どもと関わっていくべきかどうか、○それぞれのキム体制について、○保育する立場(保育所)、支援し、自立させていく立場(施設)の違いについて)」

ID92(基本的な内容でかまわないと思いますが、就職してからでも、振り返ることのできるテキストや資料を使つての講義をお願い致します。

施設実習を振り返る時間の設定(ID6)については、事後指導の形で従来は対処されている指導である。また、ここでも従来のカリキュラムよりも幅広く、専門的な知識を求める意見がみられた(ID23、ID34、ID55、ID74、ID83)。また、テキストの問題(ID92)についても言及が見られ、指導法そのものについても検討の必要があることが示された。

3. 本章のまとめ

本章では、施設において勤務する保育士を養成するにあたり、どのような科目内容が求められているのかについて、問2の回答を基に分析を行ってきた。分析の結果得られた知見をまとめると次のようになる。

(1) 医学に関する知識：感染症への対策や子どもたちの健康管理に関する、従来のカリキュラムでは小児保健等で取り扱われる内容も含まれたが、医療スタッフとの連携ができるような高度な医学や看護学に関する知識を求める意見が見られた。

(2) 身体障害・知的障害に関する知識：障害児に対する知識・援助技術や介護に関する技術が求められていた。

「障害児保育」等の科目の中で、取り扱われてきた内容に相当するが、より高度な知的障害・身体的障害に関する知識や援助の技術が必要とされていた。

(3) 心理学に関する知識・技術：カウンセリングの技法や心理的ケア、心理検査に関する知識・技術、発達に関する知識が求められていた。従来のカリキュラムで教育されるような内容よりも、より専門的な技術が習得できるようなカリキュラム、乳児の発達から青年期まで広範な知識が求められていた。

(4) 家族への対応に関する知識：かわりが難しい家族や、子どもの障害の受容に差がある家族、虐待を行う親など、多様な家族に対する関わり方や援助の仕方に関する知識や技術が求められていた。

(5) 虐待に関する知識：虐待につい

て子どもへのケアだけでなく、親に対するケアについても、ともに、高度な知識・技術が求められていた。

(6) 社会福祉の制度・法律に関する知識：社会福祉関連の法律に関する知識や最近の社会福祉行政の様相、社会福祉制度の歴史、援助のための技術など、社会福祉制度を利用する上で、より実践的な援助が行えるような知識技術が求められていた。

(7) 施設についての知識：施設の内容について、施設において必要とされるような知識・技術に関する科目内容が求められていた。

(8) 生活についての知識、社会常識やマナー：生活技術、マナー・社会常識、社会性や人間関係を調整していく能力といった技能が求められていた。

(9) 保育に関する知識技術：保育に関する知識・技術、安全管理やリスクマネジメントといった従来のカリキュラムでも重視されているような保育に関する知識・技術や施設実習をより充実した内容とすることが求められていた。

現行の保育士養成カリキュラムにおいて定められている科目内容が含まれる一方、医学に関する知識、介護に関する知識・技術などといったより専門的な知識、青年期の発達心理学などといったより広範な知識が、施設で勤務する保育士を養成するためには、求められていることが明らかとなった。

厚生労働科学研究費補助金（政策科学推進研究事業）
「施設保育士養成カリキュラム開発に関する研究」
総括報告書

第4章 「施設実習」の実施条件について

研究協力者 山瀬 範子（九州大学大学院博士課程）

<要旨>

本章では「施設実習」の回数・日数と実習実施の条件について検討を行う。分析の結果、
(1) 実習の回数にかかわらず一定以上の期間を実習に充てることが望まれていること、
(2) 実習実施の条件としては、進路や学業成績よりも教員による判定や学生の知識・技術の習得状況が重視されていることが明らかとなった。

1. 問題設定

調査票の問 3-1 では、施設実習について、実習の日数・回数と実習参加の条件について、質問を行った。具体的には、次ページ掲載のような質問を行った。

2. 調査結果の分析

(1) 実習の参加日数と回数について

表1、表2は、実習の回数と実習の日数についての回答をまとめたものである。実習の回数については、現行のカリキュラム

の1回を望ましいと考える施設が16.3%であったが、それよりも多くの回数を望む施設の方が多数を占めた。最も多かったのは、2回を望む施設で53.8%、その次に多かったのが、3回を望む施設で、23.8%であった。また、実習の日数については、10日間を望ましいとする施設が43.2%、14日間を望ましいとする施設が19.8%であり、施設実習の期間については、10日～2週間程度が最も望まれていることがわかる。

表1 実習の回数について(%)

1回	16.3(13)
2回	53.8(43)
3回	23.8(19)
4回	5(4)
6回	1.3(1)
合計	100(80)

(括弧内は実数。無回答・不明は除く。
以下同様。)

表2 実習の日数について(%)

9日以内	6.1(5)
10日	43.2(35)
12日	3.7(3)
14日	19.8(16)
15日	7.4(6)
18日	3.7(3)
20日	8.6(7)
21日以上	7.3(6)
合計	100(81)

問 3 - 1

実習を受け入れる施設の現状を踏まえ、施設における充実した実習のあり方について、1回の実習日数、実習回数、実習参加の条件（施設への就職希望、学業成績）などの観点から教えてください。

なお、同封の「保育士実習実施基準」（厚生労働省）を参考にしてください。

<p>実習日数と 実習回数</p> <p>（下線部に数字を ご記入ください。）</p>	<p>1人の学生が保育士養成校に在籍している間における、施設での実習は、 _____日程度の実習を、 _____回 行うことが望ましい。</p>	
<p>実習の参加条件</p> <p>（いくつでも 数字に○を してください）</p>	<p>進路希望</p>	<p>1. 卒業後は、保育所を含めた児童福祉施設に就職すること 2. 卒業後は、保育所以外の児童福祉施設に就職すること</p>
<p>成績による判断・教員による事前審査</p>	<p>3. 実習前に養成校で一定の単位数を取得していること 4. 実習前の成績（優・良・可を点数化した数値）が養成校において、上から 25% にはいつていること 5. 実習前の成績（優・良・可を点数化した数値）が養成校において、上から 50% にはいつていること 6. 実習前の成績（優・良・可を点数化した数値）が養成校において、上から 75% にはいつていること 7. 実習前に、養成校として各学生の実習を開始するかどうかを決める判定会議（教員による事前審査）を行うこと</p>	
<p>ボランティア</p>	<p>8. 実習前に、施設の行事にボランティアとして積極的に協力すること 9. 実習後も、施設の行事にボランティアとして積極的に協力すること</p>	
<p>その他</p>	<p>10. 実習に当たって、参加条件は必要ない 11. その他</p>	

表3 実習の回数と実習の日数 (％)

		実習日数		
		10日以内	2週間以内	15日以上
実習回数	1回	38.5(5)	—	61.5(8)
	2回	39.5(17)	39.5(17)	20.9(9)
	3回以上	70.8(17)	8.3(2)	20.8(5)

表4 実習参加の条件（「条件として必要」と回答した割合） (％ 複数回答)

進路希望	1. 卒業後は、保育所を含めた児童福祉施設に就職すること	52.9(46)
	2. 卒業後は、保育所以外の児童福祉施設に就職すること	19.5(17)
成績による判断・ 教員による事前審査	3. 実習前に養成校で一定の単位数を取得していること	56.3(49)
	4. 実習前の成績（優・良・可を点数化した数値）が養成校において、 上から25%にはいっていること	3.4(3)
	5. 実習前の成績（優・良・可を点数化した数値）が養成校において、 上から50%にはいっていること	16.1(14)
	6. 実習前の成績（優・良・可を点数化した数値）が養成校において、 上から75%にはいっていること	5.7(5)
	7. 実習前に、養成校として各学生の実習を開始するかどうかを決める 判定会議（教員による事前審査）を行うこと	47.1(41)
ボランティア	8. 実習前に、施設の行事にボランティアとして積極的に協力すること	25.3(22)
	9. 実習後も、施設の行事にボランティアとして積極的に協力すること	28.7(25)
その他	10. 実習に当たって、参加条件は必要ない	13.8(12)
	11. その他	14.9(13)

表3は、望ましいとされる実習回数と実習日数の関連についてみたものである。実習回数が少ない方が望ましいと考える施設ほど、1回あたりの実習日数は多い方がよいと考え、また、実習回数が多い方が望ましいと考えている施設ほど、1回あたりの実習日数は少なくともよいとする傾向がみられる。これらのことから考えると、複数回を設けるか否かに関わらず、一定以上の日数が必要であると施設の側では考えているといえるだろう。

(2) 実習参加の条件について

表4は、実習参加の条件についての回答をまとめたものである。

進路希望としては、保育所を含めた児童福祉施設での就職を希望していることが半数を占め、保育士として勤務する予定のある学生が実習に来ることを条件としてはいても、その就職先が特に施設であることを条件とはしていない。

次に、成績による実習資格の付与については、一定程度の単位を修得していることは必要とされているが(56.3%)、必ずしもその成績が優秀であることは必要とされてはいない。また、保育士養成校の教員による審査の必要性については、47.1%が教員による事前審査が必要であると答えていた。

施設でのボランティア活動については、3割弱程度の施設がボランティアとして施設に参加することを実習の条件としていた。なお、これらの施設のうち、実習前・後両方のボランティア活動を実習条件としていた施設は10%程度であった。

最後に、その他の項目として、記入され

ていたのは次のような条件であった。

<実習への目的意識を持っていること>

ID6 現状においての実習については、学生自身卒業をし、資格を得るための実習として捕らえ、施設、そのものを理解しないで、学校側も単位をとるためとりあえず実習しなければならないとして、取り組んでいる短大や大学が少なくない。学校従来に取り組む姿勢が問われている。

ID15 実習を行うにあたり、自分の目的がはっきりしていること。実習では何をして、何を得たいのか、明確になっていること。

ID47 学校側から紹介されたり、自から調べた中から学生が自から希望し実習先を決め目的意識を持ち実習することが望ましい。

ID67 最終的には学生本人のやる気だと思います。“気持”があれば成績の問題ではないでしょう。

<知識・技術に関する条件>

ID58 実習前に、養成校において、実習に必要な基本的心得、知識、技術を教える。

<生活に関する知識を習得していること>

ID9 生活力

ID28 実習に対する学生の目的・意欲また生活すべてが児童の手本となるので、大人(指導者)としての自覚、生活態度が重要。

ID56 社会人としての一般常識があること

ID76 学校で定めた必要最低限の学習及び社会に出るときのマナーがあればそれ以上の条件は設けるつもりはない。施設で実習して得たことは、保育所、施設のみで生かせるだけでなく、1 社会人として社会に出たときにも役立つことであり、そういう人が増えていくことが結局障害をもつ人が住み良い社会になっていくのでは？という思いがあるためである。(極端な話かもしれない)

ID87 清掃のしかた、洗濯のしかた、アイロン、洗濯のたたみ方等、常識的なこともちゃんと取得していること。

<障害や施設に関する知識を習得していること>

ID36 事前に処遇困難児童への対処方法、関わる側の留意点などを学んでおくこと。

ID78 施設に入所されている方の現状を事前に学習してきてほしい

<学年に関する条件>

ID53 専門学校等の 1 年次の学生の実習は、極力控えて頂き度い。

ID92 2 年生での実習が望ましいと考えます。

施設実習に参加するにあたり、目的意識が形成できていることや必要な知識や技術が習得できていることを条件とする意見が多くを占めた。また、学年に関する条件を上げた施設もあったが、これも、保育士養成校で 1 年以上の学習を行っていることを条件としており、やはり、一定以上の知識・技術の取得を条件としているといえるだろう。

う。

また、一方で、条件は必要ないとして次のような意見を上げる施設もあった。

<条件は必要ない>

ID8 参加条件は必要ないが、今までの受け入れ状況から見ると、実習前にボランティアに来ていると、スムーズに実習に入り、充実した結果になるケースが多い。

ID65 要望としては実習前後のボランティアに来園して欲しく思います。

ID66 福祉関係を希望する人達は純粋です。成績だけでなく気持が豊であることが必要です。一時的な成績で判断することは良いとは思えません。

条件は必要ないが、ボランティアに参加した方が実習の学習効果が高まるとして、十週前のボランティアを推奨する意見や、成績だけで判断することへの警告が含まれていた。

3. 本章のまとめ

本章では、施設実習の実施回数・日数および、施設実習実施に関する条件に関して、施設では、どのように考えられているのかについて、調査票問 3-1 の回答を基に分析を行った。

得られた結果をまとめると、次のようになる。

- (1) 実習の回数について：実習の回数については、現行のカリキュラム（1 回）よりも多くの回数（2 回、3 回）

を望む施設の方が多数を占めた。

(2) 実習の日数について：施設実習の期間については、10日～2週間程度が最も望まれていた。

(3) 実習の日数と回数について：実数回数を多く望む施設ほど、1回あたりの日数は短期間とする傾向が見られた。逆に、実習回数が少なくてよいとする施設では、実数に数を長く設定するよう求めており、複数回に分けるかどうかという違いはあれ、一定以上の実習期間を確保する必要があると考えられていた。

(4) 実習の実施条件について：進路希望（施設での就職を希望するかどうか）や保育士養成校での学業成績を条件とすることよりむしろ、教員による判定を行うことや学生が一定の知識・技術を備えていることの方が条件として望まれていた。

とは難しい。この点を踏まえ、教員による判定を行うならば、今後は、その基準について検討を行う必要がある。

実習実施の条件について、教員による判定や学生が一定の知識・技術を習得していることが条件として望まれていた。つまりは、保育士養成校の教員が、学生が一定の知識・技術を習得しているかを判定すると言うことになるだろうが、この場合、どのような基準を用いて判定を行うのかを明確にしなければならないだろう。ここで求められている知識・技術とは学業成績により測れる種類の知識・技術ではない。学業成績による判断であれば、学生からも一定の理解を得ることが可能であるだろうが、「保育士としての知識・技術」であったり、人物面からの判断を行うとなれば、明確な基準を作成しなければ、学生からの理解を得るこ

厚生労働科学研究費補助金（政策科学推進研究事業）
「施設保育士養成カリキュラム開発に関する研究」
総括報告書

第5章 「施設実習」の実施について

研究協力者 山瀬 範子（九州大学大学院博士課程）

<要旨>

本章では、「施設実習」の実施について、事前指導、実習中の指導、事後指導としてどのような指導が望まれているのかについて検討を行う。分析の結果、(1)事前指導としては、目的意識の形成や施設に関する知識の教授が重視されていること、(2)実習中の指導としては、学生の精神的なサポートが必要とされていること、(3)事後指導としては、報告会の実施など実習を振り返る機会を設けることが望まれていることが明らかとなった。

1. 問題設定

調査票の問3-2、問3-3、問3-4では、「施設実習」のあり方について、特に事前指導、実習中の指導、事後指導の3つの観点から、保育所以外の児童福祉施設（以下、施設と表記。）が保育士養成校に対してどのような指導を期待しているかについて質問を行った。具体的には、次頁のような質問を行った。

施設実習は、保育士養成カリキュラム上、選択科目のひとつとして位置づけられるが、保育士の職域として保育所をイメージする学生が、幅広い保育士の職域を経験する機会であり、また、保育という職業について深く考える機会ともなりうる。一方、それだけに、問題も多い。このような施設実習

という科目について、施設側はどのように捉えているのだろうか。

2. 調査結果の分析

(1) 事前指導について

上述のように、調査票において、どのような指導内容を望むのか、自由に回答してもらった。回答の内容をまとめると、①生活についての知識、②施設に関する知識、③施設利用者や関係者への理解や関わり方、④実習記録の記入について、⑤実習に対する目的意識といった5項目の内容がみられた。以下、これらについて、実際の記述を引用しながら、詳しく述べていくこととする。

問 3-2

施設実習の事前指導として、保育士養成校ではどのようなことに取り組んでおくべきでしょうか。ご意見をお聞かせください。

事前に指導して おくべきこと	例えば、どのような内容でしょうか
(記入例) 園庭の管理	(記入例) 植物に水やりをする方法、種まきの方法
(回答欄)	

問 3-3

施設実習の事後指導として、保育士養成校ではどのようなことに取り組んでおくべきでしょうか。ご意見をお聞かせください。

事前に指導して おくべきこと	例えば、どのような内容でしょうか
(記入例) 観察記録の報告会	(記入例) 植物の観察記録を報告しあい、観察の仕方、着眼点、報告内容について議論する。
(回答欄)	

問 3-4

保育士養成校の教員による実習中の訪問指導について、訪問回数、学生への指導時間などの観点から、ご意見をお聞かせください。

(回答欄)

① 生活についての知識

施設は、入所児童の生活の場であることが多い。ゆえに、その職員に対しては、家族としての役割や生活習慣を教える役割が期待される。実習とはいえ、職員として施設に入る以上、学生に対しても一般常識や生活に関する知識が求められるのであるが、事前指導の中で一般常識や生活に関する知識を指導してほしいという意見が多くみられた。

施設の中で支援を行っていく上では、家事能力も要求される。

ID12 「学生自信の日常における生活スキルの習得」・・・掃除の仕方、シーツのかけ方、食事のマナーなど、日常生活の基本

ID26 「挨拶、返事」

ID31 「居室、トイレ、窓等の掃除（掃除の仕方）」

ID35 「言葉遣い」・・・場をわきまえた言葉遣いの徹底

「身だしなみ」・・・実習に相応しい服装や上方、清潔感

ID52 「あいさつ」・・・はっきり、はきはきとした声で挨拶は必ずすること。

「家事一般」・・・一通り、清掃、炊事、洗濯等はできること。

ID63 「生活支援」・・・洗濯や掃除など生活の中で最低行われなければならない環境整備に関わる事柄

ID85 「生活全般」・・・食事の支度、マナー、洗濯の仕方、衣類のたたみ方（洗濯機をこわした人、全く脱水をしないで乾燥機に入れこわした人…）、シーツのかけ方、雑布のしぼり方、などなど

ID28 施設は家庭に代わるもの。生活の場であるので大人の行動すべてが児童に影響を与えます。技術・知識も大事だとは思いますが、職員のモラル等、資質の向上に努めてもらいたい。

ID6 「社会人としてのマナー」

実習期間は社会の現場で子どもたちと遊びながら、実際の子どもと過ごすことになり、学生本人のモラルが問われる場面です。そして実習することが楽しいと感じながら、その期間を過ごすことになると思います。何よりも学生一人一人の人間性がいろいろな場面で出てくるので、実習において今この期間、何をすべきか課題をきちんと持たせて実習にのぞむことが必須です。そのためには、勤務時間前に身支度をして持ち場につき、今、何をすべきか感じ取る力がが必要です。自ら、掃除をする。（きれいな環境を整える）くつをそろえる、外が落ち葉等散らかっていたら、外掃除をしますのでホウキを貸して下さいと。受身の实習では得るものが少なくなるのではと思う。

施設での生活を支援するために、上記のように最低限の家事能力も必要となる。ID28 の意見に見られるように、「施設は家庭に代わるもの」であり、子どもたちの生活の場であるのだから、同じく生活する大人（＝職員）に対しては、子どもたちの手本となれるような態度・能力が求められる。したがって、ふさわしい態度や能力を事前指導において習得させることが必要とされているといえるだろう。

また、生活に関する知識においては、次